

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名：熊本県立甲佐高等学校

住所：熊本県上益城郡甲佐町横田327番地

電話：096-234-0041

I 学校の基本情報

○生徒数：84人（9学級）

○職員数：37人

○熊本地震時の状況

・家屋の被災

生徒のおよそ26%が全壊または半壊

・校内の被害

水道用タンク破損、体育館天井から落下物、渡り廊下亀裂、壁にひび割れ

・避難所の開設

指定避難所ではなかったが、14日～16日にかけて、地区の方が数名避難。その後、町の指定避難所に移動された。

・臨時休校（13日間）

4月15日（金）～5月9日（月）



（シェイクアウト訓練の様子）

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

（1）防災教育の実施

「学校防災教育指導の手引」を活用した防災教育を実施した。本県の災害の特徴及び災害時の避難情報等の収集方法などを学習した。また、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、防災教育と避難訓練を関連付けた。

期日	取組内容
4月14日	熊本地震に係る追悼
5月20日	避難訓練（火災） 生徒調査アンケート（事前）
9月22日	防災教育公開授業（2学年）
10月8日	避難訓練（浸水・土砂）
11月17日	地域との合同避難訓練（地震） （熊本シェイクアウト訓練含む） 生徒調査アンケート（事後）

（2）機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

避難訓練（浸水・土砂）の実施前に、災害時における職員の役割や動きなどを確認する機能訓練を、職員を対象に実施した。避難訓練（浸水・土砂）当日は、国土交通省、砂防課、甲佐町役場防災担当の方を招き、指導・助言をいただいた。

（3）防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

期日	取組内容
6月22日	防災主任研修会
6月28日	第1回学校安全総合支援事業における研修会
8月中	Nits オンライン研修（任意の3日間）
8月18日	防災教育講習会
8月24日	第2回学校安全総合支援事業における研修会
10月20日	公開授業参観（御船高校）
11月10日	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム（オンライン）
12月8日	第3回学校安全総合支援事業における研修会

1月28日	全国成果発表会出席（オンライン）
-------	------------------

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

学校安全アドバイザーから、危機管理マニュアル及び学校安全計画の見直しのため、指導・助言をいただいた。

(5) AEDを用いた心肺蘇生法

AEDの使い方と心肺蘇生法を学ぶDVDを全生徒および職員で視聴した。その後、生徒を代表して、各クラスの保健委員がAEDの実習を行った。



(保健委員による心肺蘇生法の様子)

(6) その他

自然災害発生時における学校施設の避難所利用等に関する協定を、今年度中に締結する見込みである。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

2学年を対象に、防災主任が風水害に関する授業を行った。外部講師として国土交通省、砂防課の方においでいただき、専門的な内容のお話をいただいた。本県の災害の特徴、避難情報や災害情報などを収集する方法など、具体的に教えていただいたことで、防災に対する意識が高まった。また、教師と違った立場の方からのお話を聞くことで、生徒たちのキャリア教育の一環にもなった。

イ 課題

今後はカリキュラム・マネジメントの視点から横断的にかつ全学年で取り組めるよう計画をしていく必要がある。



(授業の様子)

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア 成果

浸水・土砂災害を想定した避難訓練を計画する前に、本校が所属する自治体の防災担当の方に、自治体が避難情報を出す際に規準にされている内容を教えていただいた。その後、機能訓練として全職員に危機管理マニュアルの記載内容の確認及び避難経路や各職員の役割、自治体からの災害情報の確認を行ったため、職員の危機管理の意識が高まった。避難訓練に際し、事前指導として生徒たちにパワーポイントを用いて、本校のハザードや避難情報等について説明したあと、訓練を行ったことは、生徒たちの避難に対する理解と意識付けに効果的であったという意見を、砂防課や町の防災担当の方からいただいた。

また、町の防災担当の方にお目にかかる機会が増えたため、相談しやすい雰囲気作りができたことも成果の一つである。

イ 課題

災害はいつ起きるか分からないため、生徒たちが一人のときでも自ら考え判

断し行動できるような、実践的な訓練を考えていく必要がある。また、家庭で話し合うような取組みも考えていきたい。



(避難訓練(地震)の様子)

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

防災主任研修やオンライン研修等を通して、防災教育や防災管理について学んだ。また、避難訓練前に全職員で防災マニュアル等を見直し、各自の役割を確認した。防災教育等の準備を通して、町の防災担当者と会う機会が増え、相談しやすい関係づくりができたことも成果の一つである。

イ 課題

研修会等で学んだ内容を防災教育や防災管理に還元するため、まずは校内の防災委員会で共有する必要がある。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア 成果

危機管理マニュアルにおいては改訂した日付を入れて最新版かどうかを明確にすること、学校安全計画においてはカリキュラム・マネジメントの視点から、教科・学校行事・防災教育を連携させて計画すること、という学校安全アドバイザーからの指導・助言を元に改善を行った。

イ 課題

火災、地震、浸水・土砂災害などの他に、今後は不審者対応などを考えていく必要がある。

(5) AEDを用いた心肺蘇生法

ア 成果

コロナ感染症予防対策のため、AEDの使い方と心肺蘇生法を学ぶDVDを全生徒および職員で視聴した。その後、生徒を代表して、各クラスの保健委員がAEDの実習を行った。また、体育の授業において、AEDのキットを利用して実習を行った。

イ 課題

本来ならば全生徒および全職員がAEDと心肺蘇生法の実習を行う必要があるが、感染症対策を考えると難しい。

(6) その他

ア 成果

地域の方の要望であった「水害時に本校に避難すること」が可能になりそうである。

イ 課題

学校のセキュリティや施錠・解錠の規定を協議し策定する必要がある。